

## さくらインターネット シリアル対応でリモートハウジングサービスを充実化

ATEN シリアルコンソールサーバーの導入でリモートからのシリアル管理を実現

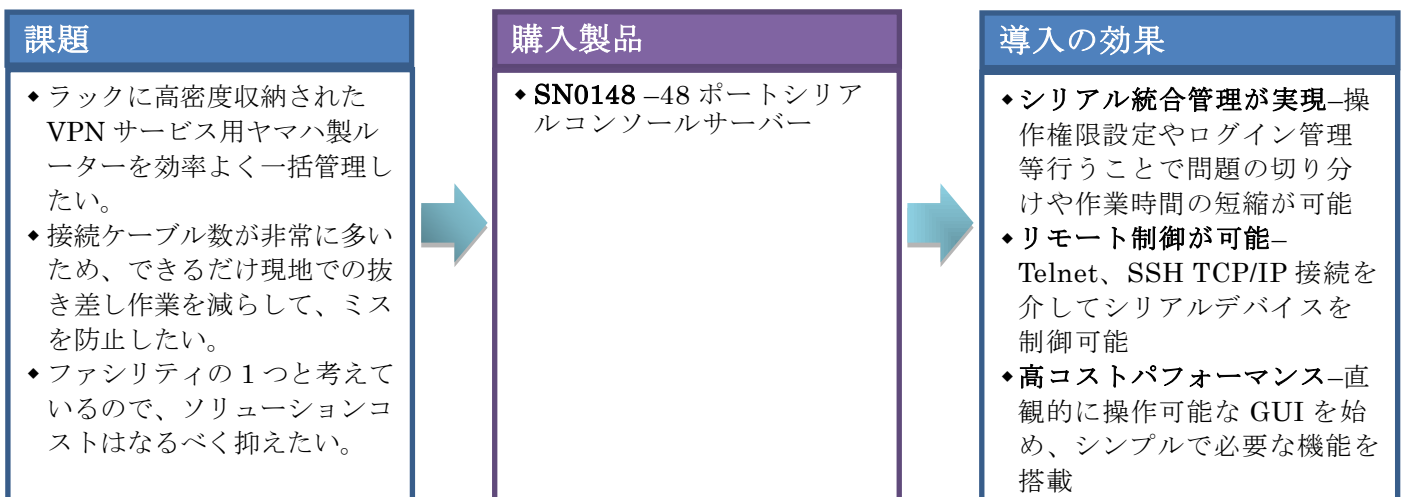
### 会社名：さくらインターネット株式会社



石狩データセンター

さくらインターネット株式会社(以下、さくらインターネット)は、日本有数のバックボーンとデータセンターを有するインターネットサービス事業者だ。月額 129 円から利用可能な「レンタルサーバ」や月額 635 円～という低価格ながら専用サーバのような使い勝手とセキュアな環境を提供する「さくらの VPS」、IaaS 型パブリッククラウドの「さくらのクラウド」等、個人ユーザーから企業までのあらゆるニーズに対応したサービスを提供している。

同社が 2011 年 11 月に開所した「石狩データセンター」は、東京ドームの約 1.1 倍という広大な敷地を有する日本最大級の郊外型大規模データセンターである。ここでは、サーバ設置などの面倒な物理作業はすべて同社が代行し、ユーザーはリモートで作業全てが完結する入局不要のデータセンターサービス「リモートハウジング」が IT 作業時間とコストの削減に貢献できると、多くのユーザーから好評を得ている。



### 導入前の課題

リモートからシリアルデバイスの設定・統合管理を行って、作業効率を更に向上させたい



さくらインターネット株式会社  
企画部リーダー 中澤道治様 (左) と  
ビジネスディベロップメント事業部  
上級エンジニア 榎本尚木様 (右)

さくらインターネット石狩データセンターでは、リモートハウジングサービスにおいて、「入局不要でリモートから全ての作業が完結する」ように、お客様へのサービス向上のための取り組みを日々行っている。以前、導入事例でご紹介した ATEN 製 Switched PDU の導入により、電源の制御をリモートから行えるようにしたのもその一環である。この Switched PDU が設置されたラックの中には、VPN サービスを提供するためのヤマハ製 VPN ルーターが高密度に 40 台程収納されたものも含まれている。このラック内の VPN ルーターや機器に接続された LAN ケーブルおよび電源ケーブル等が煩雑となっているため、現地作業員がケーブルの抜き差し作業を行うのは非常に効率が悪く、またミスを誘発してしまうリスクが予想された。その意味からでも、リモートからシリアル接続してハードウェアの設定や管理作業を行えるようにすることで、作業効率の向上とリスク回避の両方を実現したいと考えていた。しかしながら、常時これらを使用するわけではないので、複雑な機能は特に必要なく、ファシリティの 1 つとしての導入を考えているため、運用担

当者が容易に操作でき、かつ、コストはできるだけ抑えたソリューションを検討することになった。

必要にして十分な機能を備えると同時に、誰もが簡単に扱える高い操作性が非常に魅力的



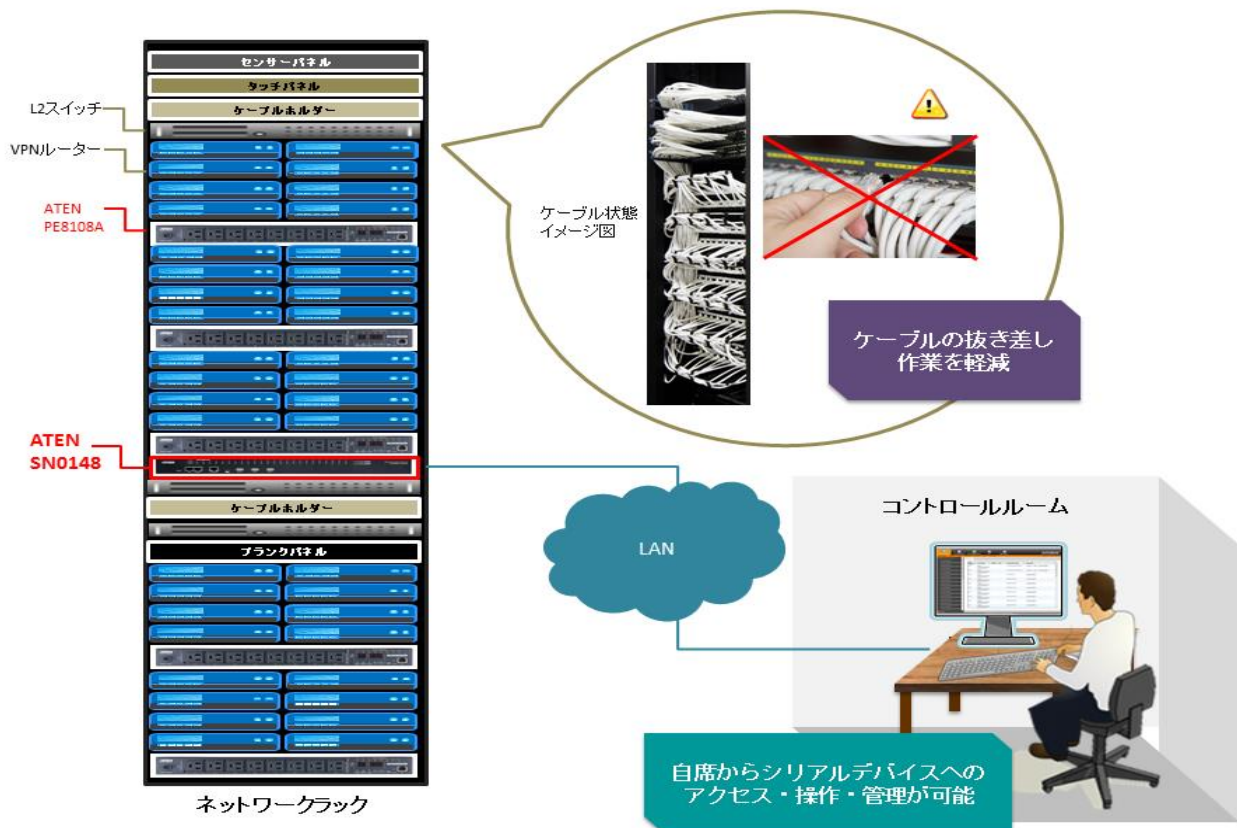
リアパネル

SN0148

48ポートシリアルコンソールサーバー

シリアル経由でのデバイスの設定や統合管理を行うシリアルコンソールサーバーは、日本国内、海外メーカーを問わず、選定することにした。中には様々な機能が搭載された高機能製品もあったが、コストがどうしても高くなってしまふことと、使いこなすまでかなり時間をかけて勉強しなければならないというのがネックであった。現状、シリアルコンソールサーバーは常時使用するものではないので、高機能であることが必須条件というわけではなかった。また、あらゆるリスクに対応できるようにするには、作業員の誰もがすぐに対処できるというのも非常に大切である。それゆえに、シリアルコンソールサーバーを扱えるようになるまでに、時間をかけたトレーニングが必要という面において、こうした多機能製品は適しているとは思われなかった。

選定を進める中で、すでに導入をしていた ATEN 製 Switched PDU の GUI 機能がシンプルでわかりやすいと、お客様と作業員の両方からの評判が高かったことから、ATEN に問い合わせしてみたところ、シリアルコンソールサーバー「SN シリーズ」を紹介された。この ATEN 製シリアルコンソールサーバーは、Telnet/SSH から操作できるのはもちろんのこと、Switched PDU と同じように、直観的にわかりやすい日本語の GUI を使用する Web ブラウザからの操作にも対応していた。ポート数においても「SN0148」は 48 ポート製品であるため、40 台のルーターを接続できる上に、少し余裕も持たせることができるのも都合が良かった。そして、リモートアクセス対応に加え、最大 64 名のユーザーアカウントを設定し、各ユーザーまたはグループの操作権限を設定できる機能やログ機能、イベント通知機能等、必要と思われる機能を全て搭載しているながら、コストも非常に魅力的であったため、この「SN0148」を導入することにした。



## 導入の効果

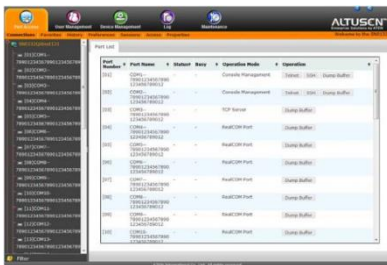
### リモート統合管理で、リスクの低減と問題の切り分けが容易になり、作業効率が大幅に向上

「『SN0148』の導入以前は、メンテナンス時に現地作業員に対して、ケーブルの抜き差しやノートパソコンをシリアルで接続して設定変更するというような指示を出しながら作業してもらっていた。作業員にしてみれば、ケーブルにタグ付けはしてあるとはいうものの、200本近くもある”カオスな状態”のケーブルの中から、指示のあったケーブルや機器を探し出すのは、至難の業であり、リスクが高かった。しかし、『SN0148』の導入後はリモートから対象の機器にアクセスして操作できるので、作業効率が飛躍的に向上し、こうしたリスクの心配もする必要がなくなった。」と、榎本氏は言う。リモートからアクセスできるので、実際にケーブルや機器を触ることによって発生するリスクを最低限に抑えることができるし、どこにいても状態を確認することができるようになった。さらに、SN0148のアクセス操作権限の設定機能により、ユーザーやグループが操作できる機器を設定できるのと、ログ機能によって、誰がどの機器にログインしているかもわかるようになったため、問題の切り分けが容易になり、問題により早く対処できるようにもなった。

操作性について、榎本氏は「すでに導入した Switched PDU と同様に、この『SN0148』の GUI も直観的にわかりやすいので、特に SOP を作らなくても、初期セットアップを 2 回くらいやれば、もう一人で十分扱えるようになった。」と話し、続いて中澤氏は「誰もが扱える直観的でシンプルな操作性というのは、リスク管理の上で非常に大事なポイントでもあった。操作する際に、機能が多すぎたり、複雑な設定が必要だったりして、迷ってしまうような製品だと適さない。」と話す。こうして、リモートからシリアルデバイスの設定と統合管理を行い、作業効率の向上とリスクの軽減という当初の課題を解決することができたのだった。

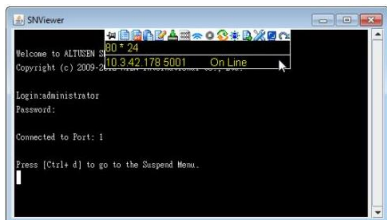
## 感想・今後の展開

### 少ポートで、Web ブラウザベースの GUI が充実したシリアルコンソールサーバーに期待



SN シリーズ Web ブラウザ GUI メイン画面

中澤氏からは「シリアルコンソールサーバーは、お客様用ではなく、社内のメンテナンス用としての導入を考えていたため、必要な場合もあれば、必要でない場合もあり、常時使用するというわけでもないもので、シンプルで必要かつ十分な機能を搭載している製品というのが、選定に当たり重要視していた項目であった。つまり、ファシリティの 1 つという考えだったので、高コストパフォーマンスな製品であることが必須であった。さらに、現状ラックにヤマハ製ルーターを 40 台搭載しているので、48 ポートであれば、1 台で十分であるという点においても、『SN0148』が最適だった。Switched PDU もそうだったが、ATEN 製品に共通している『初心者でもわかる操作性の高い GUI』というのは、非常に印象が良かった。」と高評価をいただいた。



SN ビューア画面とコントロールパネル

一方、ATEN の今後の製品に対して、中澤氏は、「オンプレミスからの移行でリモートハウジングの需要が増えると、お客様からシリアル対応の要望が出てくることもあると思われる。その際に、8 または 16 ポートのシリアルコンソールサーバーがあるといい。」と、榎本氏は「現在お客様向けには HTML ベースの GUI を提供していることもあるので、Java ではなく、Web ブラウザベースの GUI をもっと充実させた製品を期待している。」とのご要望をいただいた。早速、ATEN の開発部門に提案し、これからもデータセンターの効率化に役立つ製品を提供することをお約束して、今回のインタビューを締めくくった。

